

富山県におけるカナダカモメの初記録

中田達哉

〒935-0113 富山県氷見市惣領2172

First Record of *Larus thayeri* in Toyama Prefecture, Japan

Tatsuya Nakada

Souryou, Himi-shi, Toyama 935-0113, Japan

要約：著者は富山県氷見市氷見海岸でカナダカモメ *Larus thayeri* を観察した。カナダカモメは富山県初記録である事からここに報告する。

はじめに

氷見海岸は富山県氷見市北大町に位置し、氷見漁港が近いことから、市場に出回らない雑魚や周辺の旅館・食堂などの残飯が捨てられており、冬になると多くのカモメ類が非意図的に餌付けされ、定着している（中田未発表）。著者は2020年1月25日、及び2020年2月8日に氷見海岸でカモメ類を観察中に、富山県内で未記録のカナダカモメ *Larus thayeri* を確認したので報告する。

観察場所・観察方法

今回報告する個体は、富山県氷見市北大町万尾川河口から仏生寺川河口までの海岸約1 kmの範囲でカモメ類を観察中に確認した。

観察には8×42倍の双眼鏡を使用し、撮影には300 mmの望遠レンズに1.4倍のテレコンバータを付けたデジタル一眼レフカメラを使用した。

種名は『日本鳥類目録改訂第7版』（日本鳥学会2012）に準拠した。また、日本鳥学会（2012）に記載されていない種や、種の同定、形態に関する用語については誠文堂新光社の『日本のカモメ識別図鑑』（氏原・氏原2019）に従った。

結果

1. 観察状況

2020年1月25日11時58分から12時25分の間に、セグロカモメ *L. argentatus*、オオセグロカモメ

L. schistisagus、ニシセグロカモメ *L. fuscus* からなるカモメ類40羽ほどの群れの中で1羽を確認した（図1）。当日の天候は薄曇りで、西向きの弱風が吹いていた。観察した個体は、他のカモメ類と共に、砂浜で休息しており、時折頭かきや身振るい等を行っていた。12時24分ごろに犬の接近により飛び立ち、漁港の方向へ飛行し見失った。また、この個体は左目の瞳孔が一部歪んでいた。

2020年1月26日に同所でカモメ類を観察したが、同一個体を確認することはできなかった。しかし、2020年2月8日に再訪した際、形態の特徴、及び左目の瞳孔の（図3）の歪みから、1月25日に確認した個体と同一と断定できる大型カモメ1羽を確認した。

なお、氷見海岸ではこの後も断続的にカモメ類の観察を行っているが、カナダカモメを確認できたのは現時点では本稿で報告した2日間のみである。

2. 種の同定について

確認した個体は、①嘴は黄色で、先端近くに赤斑がある；②脚は濃いピンク色；③初列風切の突出部は黒色を呈し、先端には白斑がある；⑤背羽、肩羽、及び雨覆は灰色で、黒色を呈している初列風切との間には明瞭なコントラストがある；⑥体色は白色、という特徴を有していた。

また、同時に観察したセグロカモメ、オオセグ



図1 カナダカモメ (2020年1月25日氷見市氷見海岸).



図4 頭部と眼瞼.



図2 カナダカモメ (2020年2月8日氷見市氷見海岸).



図5 初列風切の下面.



図3 腫のゆがみ (赤矢印部).

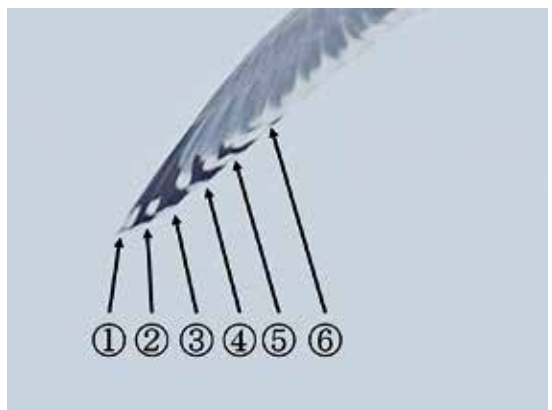


図6 初列風切の暗色部.

ロカモメ、ニシセグロカモメと比較し、①体が一回り小さい；②頭部がより丸い；③眼瞼は紫色(図4)；④嘴がより短い；⑤脚の色がより濃い；⑥背羽、肩羽、雨覆の色がより薄い；⑦頭部から胸部にかけて見られるバフ色斑がいっそうぼんやりした印象を受ける、⑧初列風切の下面は灰色(角度によっては白色)(図5)などの差異があった。

以上を踏まえて氏原・氏原(2019)で同定したところ、日本で記録のあるカモメ類の中でこれらの特徴に当てはまるものは、カナダカモメとアイスランドカモメ *L. glaucoides* の亜種クムリーンアイスランドカモメ *L. g. kumlieni* の2種のみであった。なお、この両種は中間的な個体が多く、氏原・氏原(2019)やInternational Ornithological Committee(2020)などではカナダカモメをアイスランドカモメの一亜種として扱う分類が採用されているが、今回観察した個体は、初列風切の黒色部が明らかに黒く、かつ6枚であったこと(図6)(クムリーンアイスランドカモメは5枚の個体が多いという記述が氏原・氏原(2019)にある)から、カナダカモメとして記録する。

まとめ

著者が今回確認したカモメは、形態的特徴からカナダカモメと同定できた。富山県内の鳥類についてまとめている各種報告書(氷見市史編さん委

員会 1999；富山県自然保護課 1980；富山県野鳥保護の会 1991など)には本種の記録は無く、本稿が富山県で初めての記録となる。著者がカナダカモメを確認できたのは、2020年1月25日と2月8日の2日間のみであったが、氷見海岸で観察されるカモメ類は唐島や氷見漁港内でも休息することがあるため(中田未発表)、著者が観察できなかった日についても、どこか遠くへ移動していたというよりは、氷見海岸付近に滞在しており、場合によっては同海岸周辺で越冬した可能性もある。

引用文献

- 氷見市編さん委員会. 1999. 氷見市史9 資料編 7 自然環境, pp.403-423. 氷見市, 氷見.
- International Ornithological Committee. 2020. IOC World Bird List version10.2. <https://www.worldbirdnames.org/new/> (2020年11月23日アクセス).
- 日本鳥学会. 2012. 日本鳥類目録改訂 第7版, 438pp. 日本鳥学会, 東京.
- 富山県自然保護課. 1980. 富山県の鳥獣. 242pp. 富山県, 富山.
- 富山県野鳥保護の会. 1991. 富山県の鳥類—自然環境管理計画策定のための調査—, 109pp. 富山県農地林務歩自然保護課, 富山.
- 氏原巨雄・氏原道昭. 2019. 決定版日本のカモメ 識別図鑑, 339pp. 誠文堂新光社, 東京.